


コミュニケーション教育／演劇ワークショップ  
講師 履歴書

平成22年9月26日現在

ふりがな	さとうふみお	男・女	
氏名 (芸名・雅号)	佐藤文雄		
職業	俳優		
所属団体	劇団銅鑼		
問合せ先	03 (3937) 1101 gekidandora@pop12.odn.ne.jp		

演劇ワークショップ等の経歴		
H16年1月	都立光が丘高校 希望者 20名	講師 助手
	2月発表に向けて、視覚化、イメージ豊かに表現。名前ゲーム、お話ゲームなど、テキストを使ってミニ発表会。	
H16年6月	三芳町ホスピタリティ主催高校演劇フェスティバル	講師 助手
	地域の高校演劇部4高校上演作品を批評指導。60人ほどの演劇部員と顧問を対象に。	
H16年9月	埼玉県高校演劇連盟地区大会	講師 助手
	地区大会高校演劇部代表校選出審査員	
H16年10月	三芳町ホスピタリティ主催オリジナルミュージカル	講師 助手
	会館開設五周年記念企画、三年間かけて地元小学1年から大人までを対象に1年間演劇の基礎を指導。30人。	
H17年10月	厚生労働省委託『若者自立塾』／労協	講師 助手
	いわゆる引きこもり、ニートと呼ばれる若者たちにコミュニケーション能力向上を目的に自立支援。三ヶ月の合宿生活の中で演劇カリキュラムとして演劇ワークショップを8回から10回行い、最後に1時間の演劇を上演。	

H18年8月	<b>三芳町ピンスみよし主催オリジナルミュージカル「カーソル」</b>	講師 助手
	三年間かけての集大成。小学生から大人まで28人出演。一年目は演劇ワークショップ講師として、そのあとはプロデューサーとして参加。	
H19年10月	<b>東京中小企業家同友会主催</b>	講師 助手
	中小企業の10年後を考えるをテーマに経営者を中心にシアターゲーム、コミュニケーションゲームを半年かけて行い、最終的に1時間のオリジナル芝居を上演。大人23人。	
H20年2月	<b>さいたま市若年者の職業的自立支援講習</b>	講師 助手
	就職につけない若者を対象に伝達ゲーム、アイコンタクトゲーム、緊張を解きほぐすエクササイズを通してコミュニケーション能力を高める。最後はミニ発表会。	
H21年1月	<b>労協「若者自立塾」公演「ビリーブ」</b>	講師 助手
	若者自立塾卒業生やスタッフ10代から60代15人の出演によるオリジナル公演。ヤクルトホールで有料公演のため、今までの演劇WSを基にさらにレベルを上げる為の演技指導。	
H21年9月	<b>中小企業家劇団チーム「KITAYAMA」旗揚げ公演</b>	講師 助手
	中小企業家同友会公演(19年10月)に参加したメンバーを中心に「明日はうちも、いい会社」を上演。中小企業の「いま」をディバイジング方式でオリジナル作品として立正大学の協力を得て。大人17名参加。	
H22年5月	<b>埼玉県高等学校演劇研究会</b>	講師 助手
	新座柳瀬高校演劇部「ホットチョコレート」モデル上演。それを素材に具体的に指導と質疑応答。脚本の読み、セリフと動き、舞台上で生きるために必要なことなど。生徒、顧問500人を対象に。	
H22年4月	<b>板橋区立中台中学校演劇部</b>	講師 助手
	11月公演に向けての指導。緊張を解きほぐす、想像力アップの為のエクササイズ、作品を深め、演劇の楽しさ、協同作業の大切さ。演劇部員の個性を生かした中台中学校バージョン作品づくり。	

ワークショップリーダーとしての研修歴について	
H15年7月	日本劇団協議会 シアター・イン・エデュケーション(講師：ロバート・レイ・二日間)
H16年7月	日本劇団協議会 シアター・イン・エデュケーション(講師：カレン・シンプソン・三日間)
H16年7月	日本劇団協議会 ドラマ・イン・エデュケーション(講師：ケネス・ティラー二日間)
H21年7月	児演協 フォーラムシアターを学ぶ (講師：フィリップ・ティラー・三日間)
H22年7月	芸団協 俳優指導のための実践トレーニング(講師：ローナ・マーシャル・五日間)
主な芸歴・受賞歴等	
48年 4月	東京芸術座演劇研究所入所
S49年7月	東京芸術座演劇研究所退所
S50年2月	劇団銅鑼入団
H4年5月	「センポ・スギハアラ」杉原千畝役 東京都優秀児童演劇優秀賞
年 月	(H4年よりH18年まで国内・海外公演含め803回上演)
H11年10月	リトアニア国カウナス国立劇場、ヴィリニユス国立劇場にて3ヶ月研修
H21年2月	「ハンナのかばん」父ジョージ役 厚生労働省推薦児童福祉文化財
H22年10月	「センポ・スギハアラ」ヤコブ役 東京公演のちルーマニア国巡演

自己PR	
<p>長年の俳優活動や海外公演、研修の体験から「演劇の持つ力を社会に活かす」をテーマに、演劇とあまり縁のない人たちにシアターゲーム、コミュニケーションゲームの手法を使って緊張をほぐし、開放できる「場」づくりからはじめます。失敗しても、間違ってもいい、安心できる雰囲気や信頼できる人間関係の中から次のステップの発表や公演に持って行きます。公演に向けては、ディバイジング方式(集団創作)も取り入れたり、ゼロから一緒に創作していくプロセスを体験するやり方もあります。どうしたらその人の個性を活かし、能力を引き出すことができるかを主眼に実践。</p>	